

# 平成29年度「一中の教育を振り返る意識調査」結果と考察

調査実施日 平成30年 1月23日～29日

## 1 調査について

本校では、毎年、教育活動や学校運営について継続して改善を行うために、「一中の教育を振り返る意識調査」を行っている。これは、学校経営方針について、保護者・生徒・教員の三者にアンケート形式で調査をしているものである。今年度は学校教育目標の変更により、学校経営方針の5分野20項目について、上記日程で保護者・生徒・教員の三者にアンケート形式で調査を行い、回収したアンケートの結果をまとめ、分析をした。

※回答は「4：そう思う」「3：ややそう思う」「2：あまりそう思わない」「1：そう思わない」からの選択

## 2 調査結果と考察

### (1) 総評

ほとんどの項目で「4」「3」の合計が80%を超える評価であり、保護者・生徒・教員の三者がすべて80%を超えている項目も20項目中14項目を数える。特に生徒の回答については各項目において概ね85%を超えており、高い評価となっている。

また、学年毎に結果を見ていくと、学年が上がるにしたがって評価が高くなる傾向にある。それは、保護者が学年を迫る毎に中学生のあるべき姿を理解していくことと、生徒自身に成長している姿が見られるようになっていくことに関連しているものと考えられる。

今年度よりアンケートの設問を変更したこと、集計を抽出調査から全数調査に変えたこと等により、経年比較はできないが、過去のアンケート結果よりは数値が下がっている。

また、設問についても、今後、さらに検討する余地があると思われる。

### (2) 成果

各質問項目とも概ね「4」「3」の評価であった。その中で、三者いずれも90%以上の高い評価を得たのは、次の4つの項目である。

- |  |       |
|--|-------|
| <input type="checkbox"/> 「いのちの教育」の充実により、「いのち」を大切にすることを育てる      | 項目 1  |
| <input type="checkbox"/> 喜びや悲しみ、感動などを分かち合い、ともに伸びようとする力を養う      | 項目 4  |
| <input type="checkbox"/> 体験活動を通して集団の中で個性を磨き、コミュニケーション能力を向上させる  | 項目 10 |
| <input type="checkbox"/> 集団での活動や部活動などで切磋琢磨するとともに、自尊感情や自己有用感を育む | 項目 11 |

「一中いのちの日」の取組では、講話や読み語り、仲間の良さに目を向けた社会性を養う活動等を行い、「いのち」を見つめる大切な時間として定着している。また、きちんと振り返りを行ったうえで、「いのちの日便り」を通してその活動内容や生徒の感想を生徒や保護者に伝えていることも高い評価につながったものと考えられる。

また、「FF体育祭」や「合唱コンクール」等の特別活動では、本番に至るまでの過程を大切にしたい取組やその活動を通して、充実感や自己の成長を実感することができている。そして、当日は多くの保護者にも来場いただき、一中全体で感動を共有できる取組となっていることがうかがえる。

さらに、「宿泊研修」や「修学旅行」「部活動」をはじめとする、学級、学年、学校等の仲間づく

りに重点を置いた日々の活動の中では、一人一人の存在感や自分の良さを自覚できるような配慮をして、よりよい人間関係構築のために、学年団や担任を中心に二者面談やQ-Uアンケートを踏まえた取組等を行ったことが成果につながったと思われる。

また、それらは、生徒や保護者、地域からの意見を丁寧に受け止めて、学校・学年・学級経営を進めて行こうとする教職員の意識が大きく反映しているものと考えている。今後も、互いに良好な人間関係を基盤に、集団づくり、仲間づくりに努めていきたい。

### (3) 課題

保護者・生徒・教員の三者がともに評価が低い項目はなかった。保護者・生徒の二者の評価が低かったのが項目12、保護者・教員の二者の評価が低かったのが項目13、保護者のみ評価が低かったのが項目3、6、教員のみ低かったのが項目18、19である。

- |   |      |
|---|------|
| ■ 校内外でのボランティア活動の推奨により、社会性を育む              | 項目12 |
| ■ 教科学習や総合的な学習の時間において、地域の特徴を理解し愛着を持てるようにする | 項目13 |
| ■ 夢や目標を堂々と語り、主体的・計画的に活動できる力を養う            | 項目3  |
| ■ 本物や本質に触れ、知的好奇心を揺さぶる授業展開を工夫する            | 項目6  |
| ■ 地域の指導者や支援者の協力を得て、生徒の個性の伸長を図る            | 項目18 |
| ■ 地域でのボランティア活動や職場体験を通して、地域の一員としての自覚を高める   | 項目19 |

「ボランティア活動」については、学校や生徒会の企画したボランティア活動へ参加し、校内や地域の施設、公園、通学路の清掃活動等を行っているが、社会性が身につけている点について実感が乏しいのではないかと。同様に「地域への愛着」という点においても課題がある。地域のボランティア活動は、行うだけでなく、振り返りをしっかりと行うことで自己評価をしたり、成長をメタ認知させる手立てをとっていくことが必要であると考えられる。

また、「気づき、考え、行動する」生徒を育成するためには、教員が具体的に教えることや行動で範を示すことも必要である。教員、生徒ともに、日頃、当たり前のように行われている周りの方々の支援に感謝し、できることは行動するという意識をしていきたい。

「夢や目標」については、全体数値は低かったが、保護者・生徒ともに学年が上がるにしたがって高い評価を示しており、キャリア教育や進路指導では一人一人の変容を表出させるまでに時間はかかるが、生徒が着実に成長している姿がうかがえる。

「地域との連携」において、教員の評価が低いのは生徒のより高い意識やよりよい姿を求めて、「生徒のためにまだできることがあるではないか」「さらなる指導の改善や手立ての工夫が必要ではないか」という教員の意識が表れていると思われる。今後も全職員でアイデアを出しながら連携を模索することが必要である。

最後に、「授業」「学力」について、保護者からの評価が低いことが気になる場所である。保護者が授業に参加する機会が少ないことも要因の1つかもしれない。しかし、新学習指導要領全面実施を控え、「探究型学習」への授業改善が進められている中、我々の授業力や指導力を高めていくことは常に保護者・生徒から求められていることである。来年度も校内研究を柱として、発信できる校内研究、授業改善を進めていきたい。